

## 平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

総合学科の特色を生かし、生涯を通じて学び続けることのできる学力を備え、社会に貢献し、豊かに人生を送ることのできる人材を育成する。

- 1 深い学び…コミュニケーション力を育成し、知識を基に個々の学びを深めることのできる学校
- 2 進路実現…進路選択の基礎となる確かな学力の定着を図り、生涯にわたって学び続ける力を育成する学校
- 3 共生推進教室設置校…違いを認め合い「ともに学び、ともに育つ」学校、一人ひとりの存在が大切にされる学校
- 4 地域からの信頼…「行きたい学校」、「行かせたい学校」として地域から信頼される学校

## 2 中期的目標

## 1 自らの進路を切り開くことのできる「確かな学力」の育成

(1) 「生徒の能動的学びを引き出す授業」、「進路実現につながる学力を保障する授業」をめざし、授業改善に取り組む。

⇒ 興味関心をもって取り組むことのできる授業が8割以上

- ・授業力向上のための教員研修を実施する。
- ・相互授業見学、公開授業、研究協議の実施により、授業力の向上を図る。
- ・ICT環境の整備に努め、ICTを活用した授業を推進し、魅力ある授業をつくる。
- ・教育課程の見なおし、選択科目の充実を図る。

(2) 生徒の学びを支援する進路指導の充実

- ・体験的な学びの充実等、進路について自ら考える機会をつくり、生徒の学びのモチベーションを高める。
- ・補習や講習の充実、進路カウンセリング体制の強化により、進路実現満足度90%以上をめざす。
- ・自学自習の習慣を確立させる。
- ・漢字検定、英語検定などの資格取得を積極的に推進する。
- ・進学実績の向上

国公立大学、有名私立大学への進学実績の向上 ※国公立 H28：1名⇒H31：5名、関関同立 H28：43名⇒H31：60名の合格

## 2 自尊感情、自己肯定感や探究心を育み、学びを深める教育活動を実践

(1) 学校行事や部活動を通じて様々な人とかわりながら物事を成し遂げる調整力やコミュニケーション力など人間関係力の育成を図る。

- ・共生推進教室の生徒と総合学科生徒との交流の機会を持ち、インクルーシブ教育の推進を図る。
- ・教職員および生徒の人権教育を充実し、生徒一人ひとりの存在が大切にされ、学校生活を楽しむことのできる学習環境を整える。

(2) ボランティア活動など社会貢献を推進し、主体的に学ぼうとする意欲を育てる教育を行う。

(3) 国際交流を充実させ、世界に向けた視野を広げ、異文化理解を深める。

## 3 安心・安全な学校づくり

(1) 授業規律の確立、一丸となった生徒指導、校内美化・清掃の取組み、あいさつ、言葉かけを励行し、安心して過ごせる学習環境を整える。

(2) 教育相談体制を充実させ、いじめ防止に取組み、安心して学校生活を送れる環境を整える。

(3) 人権教育の充実を図り、一人ひとりの存在を大切に学校づくりをすすめる。

(4) 実態に応じた防災教育を充実させ、自らの命を守るために行動できる態度を育てる。

## 4 学校組織の活性化

(1) 学校の教育目標を共有し、チームとして学校課題の解決に向かう組織作りを行う。

- ・PDCAサイクルを活用し、学校課題の解決を図る。
- ・研修の成果を共有し、教育課題や good practice への理解を深める。
- ・学校教育の全体像を視覚化し、それぞれの取組みが有機的・効果的に働くよう共通認識を深める。
- ・学校として効果的な取り組みを継続実施できるよう、校内システムを整える。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>併記数値は H28→H29 の意味。保護者は 548 人提出で回収率 66%であった。 生：生徒、保：保護者、教：教職員 の意味で略記している。</p> <p>【学校生活】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校へ行くのが楽しい」生 80%→76%、保 84%→83%、「学校に信頼できる友達がいる」生 92%→92%、保 92%→92% の肯定であった。</li> </ul> <p>【学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分の学力にあった授業が多い」生 76%→77%であり、一層肯定者が増えるよう取り組んでいきたい。</li> <li>・「勉強と部活動の両立ができていく」生 63%→60%、保 75%→71%、「部活動を通して生徒が達成感を得られるように指導している」教 96%→100%であるため、バランスのとれた指導を行っていくことが大切である。</li> </ul> <p>【生徒指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校生活についての先生の指導には納得できる」生 48%→42%に留まった。今年度、保護者に対する類似の質問については 71%の肯定であり、生徒との開きがある。生徒にも納得される指導となるよう取り組んでいきたい。</li> </ul> <p>【情報提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ホームページや携帯メールの内容は適切」保 93%→90%、「教育活動に必要な情報について生徒・保護者に周知」教 95%→94%となり良好であった。</li> </ul>	<p>○第1回(6/16)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10期生が1年次に実施した1000字の作文について、どこかに発表するなど、ホームページや新聞に載せることを前提で書かせるのも一つの方法である。</li> <li>・ボランティア活動は支援か学びか。単なる無償の活動ではだめで、学びが伴っているべき。→地域と連携した活動を行いながら、取組み成果の発表を校内外に行い、取り組んだ生徒の成長だけでなく、他者への刺激につなげている。</li> </ul> <p>○第2回(10/30)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器を利用している授業が的確で効率よく、わかりやすかった。また、生徒との対話が活発な授業が多くあり、さらに広がっていくと良い。</li> <li>・どれくらいの時間をグループワークに配分するかを判断基準に、授業での机の配置を変更するか考えるとよい。</li> <li>・生徒には、地域との関わりに一層取り組んでもらうことを期待している。</li> </ul> <p>○第3回(1/23)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校則の見直しについて学校協議会で確認させてもらった。案のとおりでいい。</li> <li>・ネットやSNSトラブルの危険性があるからと、スマホの所有を規制する訳にはいかないだろうから、学校で取り組まれている指導内容でいいと思う。</li> <li>・学校教育自己診断結果の分析については、前年度対比があると分かりやすい。</li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「確かな学力」の育成	(1) 「生徒の能動的学びを引き出す授業」、「進路実現につながる学力を保障する授業」をめざし、授業改善に取り組む  (2) 生徒の学びを支援する進路指導の充実	(1) ア) アクティブ・ラーニング型授業を推進する。 イ) 相互授業見学、研究協議を行い、授業力の向上を図る。 ウ) ICT活用推進委員会(仮称)により、授業における情報機器の活用を推進する。 エ) 授業研究委員会(仮称)により、教育情報の共有化や教育課題の共有を図る。 オ) 選択科目の見直し・再編を検討する。  (2) ア) SS道場、夏の勉強合宿、冬の大勉強会など学びの支援を継続して実施できるよう、体制を整える。 SS道場、土曜講習、夏・冬の勉強合宿の実施等により、自学自習の習慣を身につけさせる。 イ) 朝読書の取組みを発展させ書評作成やビブリオバトル等に取り組む。 ウ) 学年別進路説明会を実施し、保護者との連携を取り、進路実現できる体制を整える。 エ) 3ヶ年のキャリア教育計画により、1年のキャリア教育の充実を図る。	(1) ア) 自己診断(生徒) 「意見を発表する授業」 H28: 73%⇒77% 「指導方法の工夫」 H28: 68%⇒70% イ) 授業見学回数1人2回以上 ウ) チームによる活用の試行 ウ) 新たな選択科目の設定に向けた検討 (2) ア) 家庭学習時間1時間以上 H28: 45%⇒50%(1・2年平均) イ) 「自分の考えを文章にまとめる力が身についた」 H28: 50%⇒60% ウ) 年間5回実施 エ) 3ヶ年のキャリア教育計画の作成	(1) ア) 「①意見を発表する授業」63%、「②指導方法の工夫」61%。授業の中にペア・グループなど各種活動を取り入れながら、生徒が能動的に取り組むことをめざす教員が増えている。次年度も一層進めていくとともに、それに合うように質問文を修正する。(△) イ) 授業見学回数2.2回/人。明るいシート(感想)を元に教職員ミーティングを2回開催し、授業見学を通しての発見を共有できた。(○) ウ) ICT活用推進委員会により機器の整備を進めた。次年度も浸透を図るよう取り組む。(○) エ) 意見交換会を開催し授業の工夫の共有化、入試制度改革の情報収集・提供を行った。次年度も継続する。 オ) 英語の科目変更申請を行えた。(○) (2) ア) 1時間以上は1・2年で40%であった。3年生は75%。次年度は勉強と部活動の両立に留意しつつ一定量の課題等に取り組ませたい。(△) イ) 朝読書・朝学習を全学年で定着。「文章にまとめる力」は46%。選択授業(4講座)においてビブリオバトルに取り組んだ。(△) ウ) 保護者進路説明会を5回実施。次年度も継続して丁寧に対応していく。(○) エ) 3年間の進路・人権・生活の取組みとねらいを記載した表「学びがみえる」を作成し配付した。(○)
2 自尊心、自己肯定感、探究心を育み、学びを深める教育活動	(1) コミュニケーション力、人間関係力の育成を図る  (2) 共生推進教育の推進  (3) 総合学科の特色を生かした地域交流、国際交流の推進	(1) ア) クラブ説明会の実施によりクラブ活動の加入を推進し、人間関係を築く力を育てる。 イ) 学校行事において生徒が主体性を発揮できるようにする。 (2) 総合学科、共生推進教室双方の生徒の交流の機会を設定し、「ともに育つ」を実践する。 (3) ア) one day trip、校外清掃、豊中市との連携事業(乳幼児交流)を実施し、生徒の体験的な学びを支援する。 イ) 地域清掃に学校代表としてクラブ単位で参加し、小中学生との交流を深める。 ウ) クラブ活動や個人参加も含めて、学校全体としてボランティア活動を積極的に推進する。 エ) 国際交流の新しい形を模索する。	(1) ア) クラブ加入率: 80%以上 (H28: 80%) イ) 「行事が楽しい」 H28: 77%⇒80% (2) 行事の実施2回以上 (3) ア) one day trip 1回、校外清掃(各学年1回)、乳幼児交流3回 イ) 地域清掃への参加者 H28: 30名参加維持 ウ) ボランティア活動の実施参加者60人以上 エ) 国際交流の形の新提案	(1) ア) クラブ加入率は84%であった。次年度は勉強との両立ができる生徒が増えることもめざす。(◎) イ) 「行事が楽しい」77%であり前年度と同じ。生徒の主体性に任せる部分も検討していきたい。(△) (2) 夏と冬の2回実施し総合学科の生徒も多く参加した。フレンド生が制作した飾り付け作品は見事な出来栄であった。次年度も継続していきたい。(○) (3) ア) 全て計画どおり実施できた。次年度はできることを吟味しながらさらに工夫していきたい。(○) イ) 豊中市の地域清掃クリーンアップ大作戦へ生徒会役員と部活動部員が代表して19人参加した。(△) ウ) ボランティア活動は、豊中市のボランティアバスによる東北地方への宿泊活動・成果発表会や部活動による地域交流、地域清掃等で60人の参加。次年度も活動の場を探しながら、継続していきたい。(○) エ) 交渉により国際交流の次年度予算の確保ができた。それ以後は違う形式に変更する。今年度はタイから学生団を受け入れる交流も2日間実施できた。(◎)
3 安心・安全な学校づくり	(1) 安心・安全な学習環境の維持  (2) 教育相談体制の充実  (3) 人権教育の充実  (4) 防災教育の充実	(1) ア) 授業規律の確立、遅刻指導、あいさつ指導など本校のこれまでの取組みを継続し、遅刻数減少をめざす。 イ) 入学時、仲間作りのワークショップ研修を取り入れ、生徒間の信頼関係を構築する。 ウ) 校内の設備・備品を整備し、過ごしやすい学習環境をつくる。 (2) ア) 会議等で常に意識化することを促すことにより生徒対応の見直しを行い、指導への納得感を高める。 イ) 生徒情報の共有化を図り、学校生活の充実を図る。 (3) 教職員、生徒対象の人権研修を実施し、生徒対応の充実を図る。 生徒の人権研修が効果的なものになるよう教科等と連携して実施する。 (4) 校内ヒヤリマップ、通学ヒヤリマップ等を作成するなど、生徒自らが危険に気づくことができるようにする。(「地域の防災」、ボランティア部の活動と連携して)	(1) ア) 遅刻数1100名以下 (H28: 1124名) イ) 学校教育自己診断 「信頼できる友だちの存在」H28: 92%維持 「クラスの話しやすい雰囲気」H28: 86%維持 ウ) 「施設・設備に満足」 H28: 46%⇒55% (2) ア) 「先生の指導に納得」 H28: 48%⇒55% イ) 新「生徒情報を共有し、対応している」⇒89% (3) 職員研修1回以上実施 (4) ヒヤリマップの作製等、生徒の自主的な防災活動の実践	(1) ア) 遅刻者数は945名。次年度は納得感のある丁寧な生徒指導を行いながら、遅刻者数の減少に努めたい。(◎) イ) 「信頼できる友だち」92%、「話しやすい雰囲気」84%次年度もこの安心して過ごせる環境を維持していきたい。(○) ウ) 「施設・設備に満足」44%。校内の整備を少しずつ進めたが、それ以上にトイレのリフォーム工事で11月から2月までの4ヵ月間、別の校舎のトイレに行かなければならなくなったことが影響した。今年度末から使えるようになった段階で生徒に喜んでもらえることを期待したい。(△) (2) ア) 「先生の指導に納得」42%。次年度あらためて、生徒に寄り添いながら丁寧に対応し、納得感のある指導を行っていきたい。(△) イ) 「生徒情報を共有し、チームで対応」89%。次年度も維持していきたい。(○) (3) 豊中市から講師を招いて職員人権研修を1回実施した。職員研修は次年度も実施したい。(○) (4) 集中講座「地域の防災」を受講した生徒がヒヤリマップの作製に取り組んだ。(○)
4 学校組織の活性化	(1) 教育課題の解決にチーム学校として取り組むことのできる組織作り	(1) ア) 研修の成果や教育課題、よい取り組みを共有し、互いの活動が見えるようにする。 イ) 学校の教育課題について、話し合う機会を持ち、課題意識の共有と協力して解決する組織を作る。 ウ) 学校説明会に教職員・生徒によりチーム学校として取り組み、広報の推進に加え、校内活動の周知・振り返りの機会とする。	(1) ア) 「研修報告の成果の共有」 H28: 58%⇒65% イ) 新「分掌、学年等様々な立場から共通の課題に取り組んでいる」⇒80% ウ) 新「学校説明会での中学生満足度」⇒85%	(1) ア) 「研修報告の成果の共有」84%。次年度も研修に参加した際には、職員会議において一部分でも報告することを依頼していきたい。(◎) イ) 学校の教育活動について話し合い、分掌・学年等連携して「共通の課題に取り組んでいる」80%。次年度もチームとして取り組んでいきたい。(○) ウ) 合計4回の学校説明会での「中学生満足度」90%。本校生徒も延825人が係として協力。アンケート結果等を参考にさらに工夫に努めたい。(◎)